

東京都立 雑司ヶ谷霊園MAP

享楽に生きた反骨。

永井荷風 ながいかふう (1879～1959)
1-1号7側3番

墓を作るなら「浄閑寺に」と言っていた荷風の墓が父久一郎(禾原・かげん)と並んでいる。時代に背を向けて江戸趣味を追い、上田敏の言う「真の享楽主義者」としての生を貫いた。『柳橋新誌(りゅうきょうしんし)』の④成島柳北を深く慕った。



日本びいきのコスモポリタン。

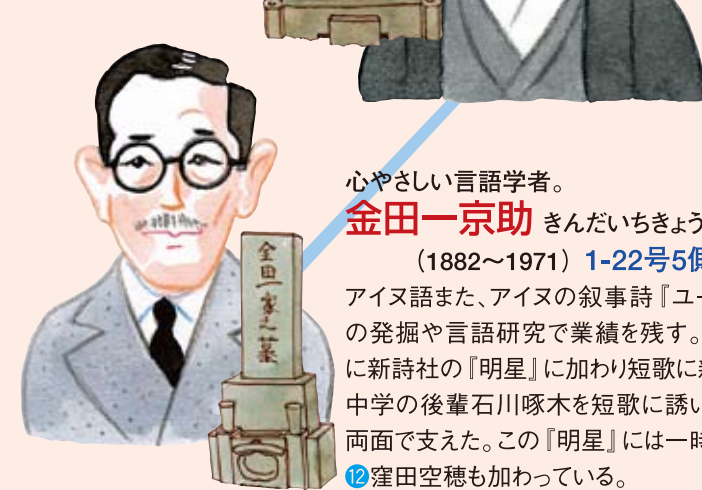
小泉八雲 こいずみやくも (1850～1904)
1-1号8側35番

父はアイルランド人、母はギリシャ人。アメリカで新聞記者などをしたあと来朝して帰化。東大講師時代、哲学の講師⑪ケーベルと同僚であった。講師辞任の時、小説家の③武林無想庵(たけばやしむそうあん)らが留任運動をした。

開明派の「最後の幕臣」。

小栗忠順 (おぐりただまさ・上野介) (1827～1868) 1-4号B5側35番

「明治の父」と司馬遼太郎が言う、幕末の開明派の幕臣。「日米修好通商条約」批准で渡米。その随行艦「咸臨丸」には勝海舟、福沢諭吉ら。中濱(ジョン)万次郎が通訳をした。④岩瀬忠震(いわせただなり・肥後守)も開明派の幕臣。



心やさしい言語学者。

金田一京助 きんだいちきょうすけ (1882～1971) 1-22号5側24番
アイヌ語また、アイヌの叙事詩『ユーカラ』の発掘や言語研究で業績を残す。若い日に新詩社の『明星』に加わり短歌に親しむ。中学の後輩石川啄木を短歌に誘い、物心両面で支えた。この『明星』には一時、歌人⑫窪田空穂も加わっている。

誠実に愛し、尽くした。

泉鏡花 いずみきょうか (1873～1939) 1-1号13側33番
10歳で失った母の鈴を生涯追慕し、師の尾崎紅葉を神格化するほどに仕えた。芸者(本名すず)との結婚を紅葉に反対されたいきさが小説『婦系図(おんなけいず)』に。新派の舞台で多くの人の涙を誘った。名優⑬喜多村緑郎もここに。



理想を教育・出版で。

羽仁もと子 はにもとこ (1873～1957) 1-1号10側42番
キリスト教徒として、西池袋に新しい教育を目指して自由学園を創立。当時の校舎、明日館(みょうにちかん)はフランク・ロイド・ライトの設計で国の重要文化財。雑誌『婦人之友』を創刊。彼女の学んだ「明治女学校」には⑥大塚楠緒子(おおつかのすおこ)も通い、女医第一号の⑦荻野吟子はその学校の校医。



「あの人」との対話を一。

霊園を訪ねて、心に思う泉下の「あの人」との対話を楽しんでみませんか。このマップは人の連環を巡って「点」が「線」となるように、墓石の位置を数字で表しました。「都電雑司ヶ谷」停留所近くの入り口から歩く順になっています。数字をたどると、つながり合う人たちに交わされる会話まで聞こえてくる気がします。その会話も楽しんで…。

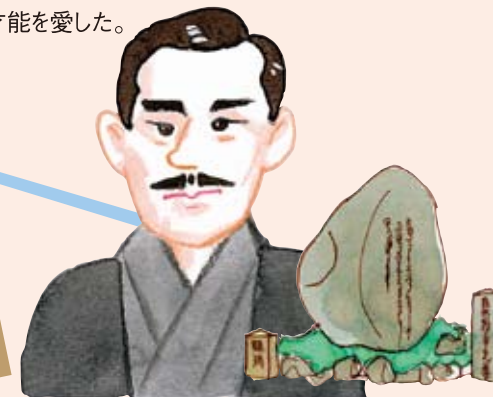
あふれる詩の才能。

サトウハチロー (1903～1973) 1-5号25側25番
戦前の「二人は若い」、戦後の「リンゴの唄」の流行歌で圧倒的な人気を生んだ詩人。若い日の無頼を心配した小説家の父紅緑は、現在の豊島区上池袋三丁目に世帯を持たせた。ラジオドラマ「君の名は」の脚本家菊田一夫も同居。



松井須磨子と芸術座。

島村抱月 しまむらほうげつ (1871～1918) 1-16号2側12番
早大教授。自然主義文学を唱導。松井須磨子と芸術座を興す。「早稲田の二秀才」と並び称された②網島梁川、親友の⑤金子馬治(哲学者)、須磨子を巡って対立した①東儀鉄笛(早大校歌の作曲者)。竹久夢二の才能を愛した。



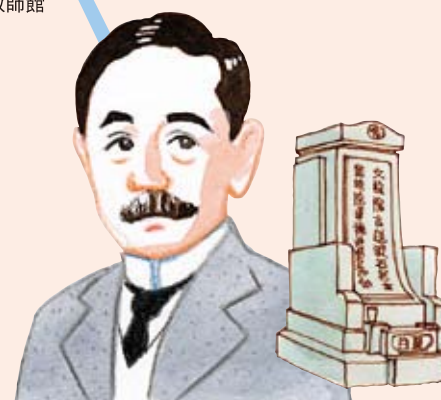
漂流で運をつかむ。

中濱(ジョン)万次郎 なかはままんじろう (1827～1898) 1-15号19側1番
土佐(高知県)中浜村の出身。14歳での出漁で遭難し、アメリカ船に助けられ米国に渡る。米国で航海術などを学び、その新知識と英語力で重用され、通訳としても活躍。



明治期、最高の人気作家。

夏目漱石 なつめそうせき (1867～1916) 1-14号1側3番
当時の雑誌『太陽』が募集した文化人の人気投票で毎年第一位。『こころ』に雑司ヶ谷霊園を描く。小泉八雲が東大を去った後の東大講師。親友の⑧中村是公(東京市長)や、大塚保治と妻の⑥楠緒子、門下の⑩森田草平、敬愛した⑪ケーベルも。



大正ロマンの叙情画。

竹久夢二 たけひさゆめじ (1884～1934) 1-8号9側32番
「大正ロマン」を代表する画家であり詩人。「夢二式」の美人画や『宵待草』などの叙情的な詩歌が大流行。若い日に雑司が谷に住む。島村抱月に目をかけられ、また羽仁もと子の「婦人之友社」で絵画主任、さし絵を描く。墓の文字は画家の有島生馬。

